

ことわざ・慣用句シリーズ

ここでは毎月、覚えておきたいことわざと慣用句を取り上げます。みなさんはどのくらい知っていますか？

慣用句

『腕をみがく』

意味: 技術が向上するよう努力すること。

ひとこと: 「腕」は腕にやどる力、「腕力(わんりょく)」などから、技術という意味に変わった。

使い方: 兄は毎日道場に通って柔道の腕をみがいている。

『馬が合う』

意味: おたがいの“気が合う”の意味。

ひとこと: 馬と乗り手の呼吸がぴったりと合うことから。

使い方: 彼とは馬が合うので一緒にいると楽しい。

ことわざ

『井の中の蛙(かわず)大海を知らず』

意味: 井戸の中の蛙が広い海を知らないように、狭い世界しか知らない人のこと。

ひとこと: 類義語として「針の穴から天をのぞく」がある。

使い方: 彼は学校の中では一番足が速くて自慢しているが、“井の中の蛙大海を知らず”だね。

『魚心(うおごころ)あれば水心(みずごころ)』

意味: こちらが好意を持って接すれば、相手も好意を持って応じてくれるという意味。

ひとこと: 相手の出方によってこちらもそれに応じる、という使い方もある。

使い方: あなたの対応の仕方によっては“魚心あれば水心”でこちらも出方を考えますよ。